

会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和7年度第1回宝塚市社会教育委員の会議
2 開 催 日 時	令和7年5月22日（木）14時00分～15時45分
3 開 催 場 所	宝塚市役所 研修室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■清水委員 □筒井委員 ■大西委員 ■温井委員 ■石井（宏尚）委員 ■林委員 ■皐月委員 ■西本委員 ■金森委員 ■石井（隆司）委員 □槇委員
5 傍 聴 者 数	0 人
6 公 開 の 可 否	■ 可 □ 不可 □一部不可
7 議題及び結果の概要	1 宝塚市の家庭教育について 2 報告事項 （1）令和7年度阪神北地区社会教育委員協議会 開催結果 （2）令和7年度近畿地区及び兵庫県社会教育委員協議会 日程等 3 その他

令和7年度第1回宝塚市社会教育委員の会議 議事要旨

1 委員の交代及び組織改正に伴う事務局の体制について報告

2 議題

(1) 宝塚市の家庭教育について

(事務局)

昨年度に開催した第1回臨時会でのご意見についての修正について説明を行う。

また、子ども未来部へ内容確認を行い実情に基づき修正を行っている旨の説明を行う。

(議長)

注釈1の著者名の漢字について修正をお願いする。

(委員)

コミュニティについての説明を割愛した理由について教えていただきたい。

(事務局)

家庭教育の課題解決のために地域が必要であるという認識はしているが、テーマとして広がりすぎると判断したため、一例を紹介する程度にとどめている。

(委員)

3ページ6行目から記載のある課題に対しての方策が合致していないと感じる。

(事務局)

家庭教育への関心が低い保護者へ届ける必要がある情報とはどんなものが考えられるか。

(委員)

支援できる体制があるということを届ける必要があると考える。(家庭教育への)関心が低い人たちへ情報を届けるためには、その人たちが興味・関心があるものを介して届けることが必要だと思う。人は浪費したり、エネルギーを放出したい場所に集まると思うので、楽しい場所で発信すると届くのではないかな。

(委員)

様々な会議に出席しており、どの会議でも情報発信ということが課題として挙げら

れているが、保護者からすれば情報過多になっていると考える。現在の1日に得ている情報量は、江戸時代で例えると1年分、平安時代で一生分と言われている。その中で力を入れて SNS 等で発信したからといって、家庭教育への関心が高まるとは考えにくいと思う。

子どもへの関心度や家庭教育の関心度は昔と比較し大きくは変わっていないと考える。先ほど意見にもあったように、楽しいところにエネルギーを使うということが、仕事以外にないことが課題だと感じている。

以前は PTA への加入率が高い状況だったことから、日頃から家庭教育に関する情報を目にする機会が多かったが、現在は状況が異なる。そのため、現在 PTA としては日ごろから、少しの時間で構わないのでボランティアなどに参加して、人との交流を通じて情報にふれる機会を増やしたいと考えている。

(副議長)

地域で子どもの居場所などの活動があるが、保護者へは表側の楽しい部分は感じてもらえていると思うが、運営などの裏側についてはあまり意識がなく、運営が厳しくなるとなくなっても仕方がないと感じているのでは。子どもを中心として考えると、子どもの環境を考える姿勢は学校、保護者、地域も同じなので、その考え方が大切だと思う。

(委員)

子どもへの無関心が進んでいる一方で、子どもの希少性が高く、大切にされすぎていると感じることがある。社会や地域で子どもを育てようと言われる一方で、声をかけると不審者扱いを受けてしまうことがある。子どもに自主規制がはたらいっているので、関心がないふりをしなければいけない状況もあると考える。祭りのようにこのバリアをなくすような機会があれば距離が縮まるのではないかな。

(副議長)

子どもに対する犯罪に保護者は警戒しているため、知らない人へは名前を教えないという家庭教育を行っていると考えられる。そのため子どもにとっては、近所の方も知らない人となってしまう。日頃から関りがあれば違うと思う。地域の祭りでは、地域で活動している人という認識をもってもらおう努力をしている。

(委員)

近所と関わりたいと思っている家庭と、そうではない家庭があり、保護者の考えが子どもにも影響していると感じる。また、関わりたいと思っている家庭は情報を自ら得る意欲があるが、関わりたいくない家庭は情報を得る意欲が低いのではと考える。そのため、困ったことが起きた際には、情報がないため更に状況が悪化していくと考えられる。

(委員)

3 ページ文章中に「支援を必要とする家庭や家庭教育への関心が低い保護者に情報を届ける必要がある」と記載があるが、情報を求めている保護者へ届ける必要があると考える。

(委員)

子どもへの安全意識が高い保護者ほど、他人とは関わらない方針の家庭が多いと感じる。例えば、公園で遊んでいて、近所の方から怒鳴れるような場合には、保護者はその公園では遊ばないように注意する。地域としてはその怒鳴る人を把握しているが、子どもの保護へ意識がいき、怒鳴る人への福祉的なケアが必要であることは忘れられがちになる。そうすると、怒鳴る人は地域から孤立してしまう。保護者が安心して送り出せるような地域づくりが課題と感じる。

(委員)

他市の事例で、小学校の近隣に住んでいる方から、活動に対して騒音のクレームがあり、小学校は近隣の方を小学校へ招いて、小学生との関りを持たせたところ、近隣に住んでいる人は子どもの味方になった。関り方が疎外から応接に変化したと考えられる。

(事務局)

小学校では地域を知る授業があるのか。

(委員)

小学校 3 年生の社会科で宝塚のまちを知る機会があり、市立手塚治虫記念館や宝塚駅周辺の商店へ校外学習を行っている。タブレットだけでなく、実地で学ぶことが発達段階でも重要である。学校応援団やコミュニティ・スクールでは、学校関係者だけではなく、地域の方と関わる貴重な場となっている。学校によく来られる地域の方は、自治会やたからづか学校応援団など地域の担い手を兼任されていることが多い。地域の担い手が固定化となっていることは課題と言われることが多いが、地域のことをよく知っている方が子どもたちと関わることによって、その人を介して、子どもたちも地域の背景を理解したりふれたりしている。地域の知らなかった人が、少しずつ生活に溶け込んで、知っている人になっていくような仕組みづくりを目指している。

(事務局)

たからづか学校応援団などについて、社会全体でサポートする環境体制に追加するのも良いかもしれない。

(委員)

部活動の地域移行について、進めていくことは難しいことだと思うが、チャンスだと思う。同質性が高い学校から切り離すことは、子どもにとって良い経験になるのでは。

(委員)

まちづくり協議会について、割愛になった理由は理解しているが、地域の役割は大きく、重要だと思うので残してほしい。

(委員)

自分が子どもの頃と比較し文化が変わってきている。

(委員)

家庭教育に関心が低い理由を地域は知っていく必要があると考える。そうでないと、どういう情報を伝えたらいいかは分からないままだと思う。

(委員)

家庭がうまくいっているから無関心とは限らない。

(事務局)

子ども未来部は個別に家庭支援を行い、社会教育部は全体的な教育を行っているとすれば、個別で届けたい情報と全体に届けたい情報は違うと考える。まちづくり協議会の記載については、再度検討する。

(委員)

日本で子どもの自殺が多い理由の一つとしては同質性が高すぎる事が挙げられる。放課後児童クラブのように異年齢が集まる場は大切だと考える。また、家庭教育に関心がある、支援が必要かどうかは本人ですら分からないこともある。ニーズに応えることが行政の役目だとは思いますが、社会教育はニーズを作り出すことが役割だと考える。場所や機会を提供すること、同質性を緩くすることは家庭教育をサポートしているのでは。

(事務局)

学校、家庭でできないことを社会教育は行っていると考えます。放課後児童クラブは児童福祉法に基づく子育て支援策であり、社会教育としては、「フリースクール」がイメージとして近いと感じる。

(委員)

昨日の研修で、社会教育で不登校の支援ができるのではというお話があった。すでに網羅された上で記載していると思うが、家庭訪問や相談支援以外に、不登校支援について記載してはどうか。

(副議長)

不登校支援は学校へ通えるように進めることが多いが、学校や家庭でもない場所に安心できる居場所ができれば良いのではと感じる。

情報発信については、先ほど皆さんからあったように修正が必要だと思う。

(議長)

関心の有無にかかわらず、情報は持続的に発信する必要があると考える。

(副議長)

情報発信する対象を特定せずに広い範囲での記載にしてはどうか。

困った時にここを見れば解決でき、その場で解決できない場合は、該当する窓口が分かると便利だと思う。

(委員)

(たからっ子総合相談センター) あのねとフレミラ宝塚は同じ役割なのか。

(副議長)

(たからっ子総合相談センター) あのねは子どもの発達など様々な相談ができるところ、フレミラ宝塚は児童館と老人福祉センターがあり、時間帯によって利用できる年代を分けており、不登校の子の居場所の一つにもなっている。人とのふれあいは子どもへも刺激があるが、大人も同じだと考える。私は地域活動などに参加しているため、情報が入ってくるし、発信も行うが、地域への関心が低い場合は、他者とのふれあいが少ないため、意識が変わりにくいのではと考える。人とのふれあいが一番大切だと思う。

(事務局)

本日議論いただいているのは、課題解決と方策参考であると考えます。この意見交換ですべてを解決しようというものではない。福祉として行っていく家庭教育と教育が行っていく家庭教育があると考えているため、整理しまとめていきたいと思う。

(議長)

フレミラ宝塚の運営委員には、学校教育や社会教育の関係者がおられるのか。

(事務局)

子ども未来部所管の子ども審議会があり、民生児童委員やぷらごこむで活動しているボランティア、地域の方などが委員となっている。

(議長)

今後のスケジュールについて事務局から願います。

(事務局)

ご意見をもとに修正等を行い、教育委員会へ報告を行う予定。

(議長)

議長及び事務局で修正するが、可能であれば修正後、各委員へも確認をお願いしたい。

(事務局)

提言の作成と並行して、教育振興基本計画の策定事務が始まっているため、調整しながらご意見をいただける方法を検討する。

3 報告事項

(1) 令和7年度阪神北地区社会教育委員協議会第1回理事会について

日時 令和7年4月30日(水) 14:00～15:30

場所 猪名川町文化体育館

内容

令和7年度研究テーマ(案)

令和7年度総会及び研修会について

情報交換会等

(2) 令和7年度阪神北地区社会教育委員協議会及び第1回研修会

日時 令和7年5月21日(水) 14:00～

場所 猪名川町文化体育館

内容

令和6年度事業報告について

令和7年度研究テーマについて

令和7年度事業計画について

(3) 令和7年度近畿地区及び兵庫県社会教育委員協議会日程等(予定)について

(※議長及び副議長が対象)

ア 兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会

日時：6月3日(火) 時間未定

会場：のじぎく会館

イ 兵庫県研究大会

日時：11月26日(水) 時間未定

会場：未定

ウ 近畿地区社会教育研究大会

日時：9月5日(金)

会場：和歌山県民文化会館

(事務局)

それでは、以上をもって、本日の議事を終わらせていただく。